

『向島の豊かな自然と生きもの』

第53回 「イトトンボ」

ちっちゃくてほそいほそいイトトンボ(糸蜻蛉)。

ひとくちにトンボと言っても、大きくて立派な「オニヤンマ」から、ちっちゃくて10円玉くらいの「ハッチョウトンボ」まで色々な種がいる。

トンボのヤゴは水の中で水中の動物プランクトンや小昆虫を食べて育ち、羽化の時は来ると、水中から伸びる植物の茎や水辺の建造物の壁を伝って上陸して飛び立つ。成虫になると空中で小昆虫を捕まえて食べている。

今回は、トンボの中でもちっちゃくて細いほそい「イトトンボ」!

イトトンボの中でもちっちゃい「アオモンイトトンボ」とか「アジアイトトンボ」はいったいどんな生活をしているのだろうか?

大きなオニヤンマがアゲハチョウを捕まえて地面でバタバタしながら食べているところや、小さいトンボが草むらで縄張りに入った同じ種のトンボを捕まえて食べた現場を見た事があるが、イトトンボの食事シーンは見たことがない。

ちっちゃいイトトンボがエサを食べているところを見ようとがんばって試みたが、夏の暑さに負けて見る事が出来なかった。イトトンボの幼虫(ヤゴ)の水の中での生活にいたってはまったく知らない。

イトトンボの観察で不思議に思った時の思い出話。

ある日、水辺でちっちゃいイトトンボが水面すれすれをスィーツスィーツと飛んでいるのを見つければ、直径60cmもある捕虫網でエイ! ヤーッとすくってみた。

アレ?! いない。アミの中はカラッポ。アミの大きさからして逃がすことは無い!! と思ったが…ダメ。ウーム…今度こそは…水面にかぶせるようにアミを振ったが…ダメ…アレ!?…いない。アミの中はカラッポ。

水の中に落ちていない!? いや、自分から水の中に逃げた!? そーか!! 水が怖くないんじゃ!!

イトトンボの仲間には水中で産卵する種もあり、水の中に入ることが怖くないのかも知れないし、水の中に入ることが、天敵のクモから逃げるため手段のひとつになっているのかもしれない…そういったことが、イトトンボの仲間が「体を小さく進化させ、水の中に入る時の負担を少なくした」事につながるのかもしれない。と思った。

イトトンボのちっちゃくて細い体を見てみると、虫って不思議!! 私にとって、いつまでも虫探し・昆虫採集は新しい発見と驚きがある。

※イトトンボの食事シーンをみたことがあったら教えてください! 今回展示した虫の中には、トンボ以外もあります。

～ 花と鳥と昆虫と海辺に遊ぶ ～
つるかめクラブ 江頭 正